

GF

ジェンダーフォーラム
通信

GENDER FORUM PRESS

女とは? 男とは? 考えるマガジン

和光大学 ジェンダーフォーラム 〒195-8585 東京都町田市金井町2160 和光大学ジェンダーフリースペース(G112) TEL 044-989-7777 内線4112

HOT TOPICS

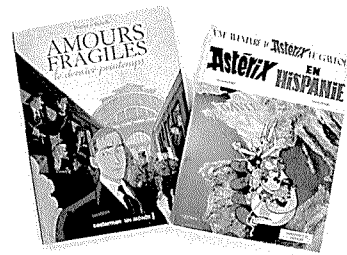
漫画とMANGAを読み比べる

— ジェンダーの視点から —

—2007年12月12日、表現学部総合文化学科の杉本紀子教授に、フランスにおける日本漫画の受容についてお話しいただきました。

近年、日本における漫画文化の発展は大きな注目を集め、その評価は日本国内に留まらず、海外においても驚くほど高い。新聞や雑誌も海外での日本漫画ブームについて報じ、漫画は日本の重要な輸出産業と認知され、国策の対象として議論されるようになってきている。しかし、それと同時に国内での漫画の売り上げの低調さ、作品内容の行き詰まり感に加えて、韓国や中国等アジア圏の漫画の急成長など、その危機が囁かれるようになってきている。昨年フランスに訪問した杉本紀子先生によるフランスでの日本漫画受容についての講演はタイムリーなものであると同時に、翻訳の問題や異文化同士の接触を通じて明らかになる、文化の構造的課題点といった時代を越えるものにも及び、非常に興味深いものとなった。

講義の前半では、フランスにおける日本漫画受容の歴史的過程が説明された。日本漫画に先立って、日本のアニメがフランスの放送局で放映され、それが原作である日本の漫画に対する興味を引き起こした。バンドデシネ（通常BDと表記される）と呼ばれる従来のフランス漫画が、幼児向けか芸術志向の大人向けのものであり、年単位でしか発表されないのに対し、日本漫画は、十代を対象に彼らの悩みや日常を描き、月単位、週単位というハイテンポで作品を発表することで好評を得て急速に普及した。現在フランスの本屋では、BDのスペースよりも日本漫画のスペースの方がはるかに広いという。そして、注目すべきは、早い時期から、日本漫画の特徴として、独特の暴力と性描写があることが評価と非難の両面から指摘



されてきたことであろう。

後半では『ドラゴンボール』と『ベルサイユのばら』の二作品が取りあげられ、原作と仏訳の詳細な比較が行われた。

『ドラゴンボール』の分析では、「田舎者」といった差別的な言葉、「チンチン」や「キンタマ」といった性に関わる言葉を、仏訳が注意深く取り除いていることが指摘された。『ドラゴンボール』の主人公はまだ幼い少年であり、性的な表現と言っても、幼児関心的な域を出ていないにもかかわらず、それに対して仏訳が神経質な(?)対応をしていることは注目に値する。

『ベルサイユのばら』の分析では、物語のポイントとなる登場人物間の身分差の表現に、仏訳が苦勞していることが指摘された。人称代名詞をはじめとする各種の言葉に身分差が反映する日本語では、会話を重ねること自体が登場人物間の身分差の確認と階級社会の表現となり、それによってフランス革命前夜の人間模様が作品の中で立体的に構成されている。しかし、フランス語はそのような形では身分差を表現しないため、表現の丁寧さの違いなどでそれを補っていくしかない。フランス革命という題材を日本語で表現した漫画をさらにフランス語に訳すという交錯した試みが、互いの社会関係を踏まえた上での表現が常に求められている日本語、及び日本の文化の性質をはからずも浮き彫りにしたと言える。

現在、日本漫画の海外進出は、多くの論者によって論じられている。しかしながら、具体的に翻訳された作品を取りあげ、原作との丁寧な比較を行うという試みは充分になされているとは言いがたい。今回の講義はその点において聴講者にとって貴重な体験となったといえるし、何らかの形で継続されるべき試みであるといえるだろう。

(井上加勇/和光大学総合文化研究所特別研究員)



デート・バイオレンスを考える

ガマンしているのは嫌われたくないからですか

——湘南DVサポートセンターの瀧田信之さんとユースリーダーの学生さんたちが2007年10月24日、和光大学でワークショップを開いてくださいました。「暴力を振るわない、暴力を振るわれない関係」を築くためにはどうしたらよいかを参加者全員が共に考えるワークショップでした。

第一部

最初に瀧田さんから「暴力とは何か?」についてのお話がありました。「暴力」というと、殴る、蹴る、ぶつといった身体的暴力がすぐに思い浮かびますが、それだけではありません。言葉での脅しや無視、望まないセックスを強要されること、無理矢理おごられるなども「暴力」であることが説明されました。そして、ユースリーダーによるDVのスキットがいくつか紹介されました。たとえば、花火見物に行ったら些細な事で怒りだす「彼」、付き合っている「彼女」から異性の携帯番号をすべて消してほしいと言われる「彼」、「〇〇を買ってこい」と言われ言われるがままに行動してしまう「彼女」などのスキットが演じられました。私たち参加者はこれらのスキットを見て、どんなところが暴力的だったか、被害者や加害者はその時どんな気持ちだったか、またそのような暴力に直面した時どうしたらよいかを話し合いました。このようなワークショップを通して、参加者全員が共通の問題意識をもてるようになり、かつ、暴力とは身近なところで起きているものであると実感することができたような気がします。そして、相手も自分も大切にす関係、対等な関係とはどんな関係なのかを考えるよいきっかけになったのではないのでしょうか。

第二部

第二部では、以下のような状況説明がされました。「A子は先輩と付き合い始めて1年になる友人B子の様子が最近おかしいと感じています。例えば、B子がカーディガンを脱いだ時、腕にあざがあることに気付きました。夜もバイトを始め、成績も下がり、よく学校を休みます。A子は心配になって、思い切ってB子に聞いてみました。するとB子は彼との関係の話してくれたのですが、生理も来ないので不安になっていると言います。A子は授業で聞いたデートバイオレンスだと思いました。数日



後、B子の家に電話をすると、外出中でお母さんが出ました。A子は躊躇したのですが、お母さんにB子のことを話しました。その晩お母さんが問い詰めると、B子は彼との関係を話し始めました。このような状況からB子を助けるために、友だち(A子)ができること、B子の親ができること、学校ができることをグループにわかれて話し合いました。

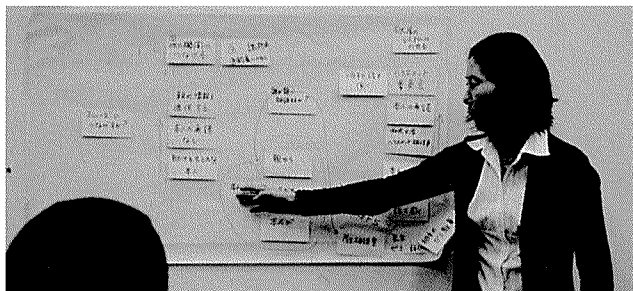
このような活動を通して、参加者たちは、B子を暴力から救うためにさまざまな方法があることを学びました。たとえば、「彼」と別れるように説得するだけでなく、カウンセリングを受けに行く、大学などの相談窓口に行く、第三者機関に相談に行くなどさまざまな問題解決方法が提示されました。ここでは、問題解決方法を学ぶと同時に、相手を怒らせたり傷つけたりしないためにどのような言い方をしたらいいかといったコミュニケーションの取り方についても学ぶことができました。

「わたし」にできること

テレビや新聞では毎日ように、いじめ、虐待、DVなどの暴力事件が報道されています。「ああ、またか」と陰鬱な気持ちになると同時に、心のどこかで他人事と思い「傍観者」になっている自分にハッとすることがあります。いったい、私たちは暴力に悩む人々の存在にどのくらい気づいているのでしょうか。被害者たちは精神的ダメージが大きく、なかなか周囲に打ち明けられず、長い間トラウマに苦しむと言われていています。そして、加害者もまた、力でしか自分を誇示できない内面的弱さを抱えている自尊心の低い人で、自己嫌悪に苦しんでいると言われています。

正直なところ、私は「暴力からあなたを守ってあげる」なんて格好のいいことはとても言えません。しかし、「あの人に話してみようかな」と思われる存在ではいたいと思うのです。暴力を他人に打ち明けることはとても勇気のいることです。しかし、一人で悩んでいないで、誰か信頼できる人に話をすることが暴力から脱する第一歩だと私は思います。「わたし」が「あなた」にしてあげられることは「話を聞くこと」だけかもしれません。それでも、「わたしはここにいるから」というメッセージだけは発信続けていきたいと思うのです。

(吉原令子/本学非常勤講師)



グループで話し合われた事を発表する

レイプ神話と「従軍慰安婦」問題

ある大学での心理学的調査から

日本での強姦の認知件数は1,683件、強制わいせつ3,228件（平成17年度版犯罪白書）ということだそうです。性被害の実態を反映しているとは考えにくい低い数値です。都内在住の成人女性459名を対象とした1999年の調査では、性被害の経験率は83.7%にのぼり、うちレイプ既遂、未遂を合わせると、経験率は22.7%であったといいますし、関西の女性811名を対象とした2003年の調査においては、性被害の経験率は79%、レイプとレイプ未遂の経験率は87%だったそうです。

性暴力被害に遭うことは、精神的・身体的に重大な苦痛を伴い、長期にわたり精神的健康に悪影響を及ぼすことが知られています。いわゆるPTSDです。しかし、その被害の性質ゆえに、被害者は恥辱感や人に知られることへの恐れを強く抱いており、被害を届け出ること自体が非常に難しい現状です。このような状況は、レイプやレイプ被害者に対する偏見が影響していることが考えられます。

2006年度の卒論研究で沼夏美さんがこの問題で、「レイプ神話」をテーマに調査を行いました。

レイプ神話は、レイプ被害の女性にも責任がある、被害はたいしたことはない、女にはレイプ願望がある、などのような間違った信念のことであり、それは加害者を免責し、反対に被害者の責任を問うという悪さをします。レイプ神話は、女性に対する性暴力を過小評価したり正当化する役目を持ちます。残念ながら、全くの誤りでありながら、人々に広範にわたり信じられています。沼さんの卒論では、1985年に発表された大淵他の性犯罪加害者と一般大学生のレイプ神話の質問紙を現代の学生にも実施して21年間の違いを明らかにしました。

レイプ神話は、21年間でやや減っている傾向は見られたが、一部根強く存在している部分があることがわかりました。またポルノなどの性的暴力メディア接触が多い者の方が少ない者に比べて、レイプ神話を信じる傾向が強いこともわかりました。

さらに2007年には明治学院大学の北風菜穂子さんが修士論文でこの問題を取り上げ、スペインの大学生と日本人学生との比較を行い、日本人学生の方がレイプ神話をより強く信じていることを明らかにしました。

この調査直前に、日本政府の「従軍慰安婦」問題への対応を批判した、米下院の「対日謝罪要求決議」が発表されました。これに基づき河野発言の追加も含め、9項目からなる「米下院決議支持態度尺度」を作成して同時に聞いています。レイプ神話の受容度が低い人は、ほとんどの項目で謝罪要求決議をより強く支持する傾向にあり、「日本政府は国際社会の勧告に従い教育をしなければならない」という項目ではレイプ神話の受容度が低い人が統計的に有意に、より強く賛成しました。

このように、レイプ神話という誤った態度・信念を持っているかどうか、「従軍慰安婦」問題の日本政府の行動に対する態度とも関連することが明らかになりました。

北風さんの研究は、短時間の教育でもレイプに対する態度を改めることが出来ることも2つめの研究で実証しています。正しい知識が誤った態度をただす力を持つという点で、レイプ神話も「従軍慰安婦」問題でも、良い教育を行うことの重要性を示す結果になっています。今後の研究の展開が楽しみです。

(伊藤武彦/現代人間学部)

GENDER CAFE

カフェトーク

毎週金曜日のお昼休み（通常講義期間）に、ジェンダーカフェを開いています。コーヒー・紅茶・緑茶などの飲み物は用意してあるので、各自昼食を持参して気軽なジェンダーについてのおしゃべりをしたり、質問をしたりと、学生教員の交流の場となっています。

特に昨年秋からは、ジェンダーカフェイベントとして、教員によるカフェトークを不定期にですが開催しました。「ジェンダー」が分かりづらいという人もいたので、身近にあるテーマに焦点を当てた、ジェンダーフォーラムの担当者による企画でした。

公共空間におけるジェンダー・ピクトグラフ(井上輝子)

日頃何気なく目にしてしているシンボルマーク。中でも特に、トイレのマークや公共空間での表示（標識）をテーマにしました。

初めは見た事のある面白（仰天）マークをみんなで出し合いましたが、そのうち「なぜそうなのか」「分かりやすさとは…」と内容は広がり、日本のみならず海外での体験や状況も交えて、記号や色とバイアスについて盛り上がりました。

コカ・コーラ(杉本昌昭)

学生にとって身近なファストフード。その中からコカ・コーラを取り上げて、1980～90年代のテレビCMに見るジェンダー表象についてみてみました。

杉本先生力作のCM映像メドレー集を実際に見ながら、時代の変化（服装、役者、設定等）に大笑い。と同時に、当時は斬新だった広告の提示するモノについて話し合いました。

タカラヅカ(長尾洋子)

宝塚歌劇を生で見た事のある人、見た事はなくとも興味のある人など、それぞれのタカラヅカイメージを語り合いました。

タカラヅカの歴史は戦前から始まり、現在の芸能界やアートシーンでも独自の存在感を放っていること。その魅力の一つである男装が、ジェンダー記号のぶつかり合う現場であることが話されました。

今後もジェンダーカフェ、そしてカフェトークを毎週金曜日に開催していきますので、気の向いたとき、興味のあるテーマの時、ちょっと足を伸ばしてジェンダーフリースペースに立ち寄ってみてください。講義とは一味違う「ジェンダー」に出会えることと思います。

ジェンダーが見える?!

編著者が語る、日本の女性

—『地図でみる日本の女性』の編著者である木下礼子さんをお招きして、2007年12月19日に学生企画を開催しました。

ジェンダー地図イベントを企画して

女性学関係者のイベント、国立女性教育会館の夏のフォーラムで、木下礼子さんがジェンダー地図の説明をするのを聞き、ああこれを、ジェンダー・フリー・スペースでもしてもらって先生方や学生さんにぜひ見てもらいたい、と思ったのが発端だった。「地図を使ってジェンダー視点に気づいてもらう」と「ジェンダーの話題を地図で展開してその利点を知ってもらう」というのとどちらにするか打ち合わせ、後者で行きましょう、というところで、12月19日の当日を迎えた。

木下さんは高校の社会科の先生をしながら研究活動を続けており、明石書店版の『地図でみる日本の女性』の作成に参加している。お忙しい中来てもらって10人程度の参加者で申し訳ないと思ったら、むしろそのほうがいいんです、というお答えで、実際話は参加者の討論によって進められ、なるほどこういう方法もあるのだと思う。

木下さんの用いる地域別地図は、都道府県、市町村などの行政区域別の膨大なデータを地図に反映させる手法で作ら

地図でみる日本の女性



編著：武田祐子・木下礼子
明石書店
2007年3月31日
¥2000 + 税

れている。たとえば30代独身者の持ち家率を男女別にとると、男性は郊外に、女性は都市部に持ち家率の高い人が多いとわかる。男性は「お嫁さんとこども用」の住宅を買って結婚を夢見ているのに、女性の方はそうじゃないんだ!と、自分の将来を考え合わせながら、学生参加者は大騒ぎ。女性学で使われるデータは表やグラフで示されることが多いが、地図を使うのも大変有効なのだよくわかった。

普段は高校生を対象に、「なにごとに疑問を持つ」ことから始めよう、という教育をなさっている木下さん、大学の学生を相手の授業もエンジョイしてくださったとのこと。これを機会に参加者がジェンダー関係の学習・研究の地図利用を、深めていければ企画は成功なのだろうと思う。

(小澤かおる/現代社会関係論コース院生)



学生の持ち込み企画募集

ジェンダーに関する企画の持ち込みを歓迎します。ビデオの上映会をするもよし、読書会や、お話を聞いてみたい人を和光大学に呼ぶもよし。自分の面白いと思うイベントを自分で開催してみませんか。ジェンダーフォーラムはそんな学生の応援・サポートをします。一人でも、グループでもかまいませんので、いつでも気軽に相談に来てください。また、ジェンダーフォーラム自体の活動に興味のある学生も募集中です。

EVENT SCHEDULE

春からのイベントスケジュール

展示

◎ジェンダーでみる桃太郎-桃から男子で鬼は外

日時…………… 6月23日(月) —27日(金)

場所…………… 和光大学図書館梅根記念室

関連企画… ビデオ上映

桃から生まれた桃太郎。でもそうではない桃太郎がいることを知っていますか。戦争中は軍国主義や男らしさのシンボルとされた桃太郎も敗戦後は一変、主役の座を降ります。現在マンガやゲームに登場する桃太郎は、いくつもの桃太郎像のごく一部。時代とともに変化してきた桃太郎の姿と物語をジェンダーの視点から豊富な資料で迎えます。

この他にも色々計画中です。詳細は掲示やHPをご覧ください。

講演

◎韓国の漫画文化における日本マンガの影響

日時…………… 5月14日(水)午後

場所…………… 和光大学内(未定)

話者…………… クキー・チュウさん

1970—1980年代に形成された韓国の純情漫画(スンジョン・マンファ)文化は日本マンガの模倣と再生産を通じて始まりました。その純情漫画を政治的に声をなくした韓国的女性たちに表現の自由を与えた場として再解釈し、韓国の純情漫画作家たちが日本の少女マンガからどのような影響をうけ、それを内面化・政治化したかを分析します。